

## 本社・雨畑地区住民調査

# 水害不安 9割超

## ダム堆砂 「日軽金が除去を」4割

アルミ加工大手日本軽金属(東京都)が管理し、土砂で埋まる雨畑ダム(山梨県早川町)について、静岡新聞社がダム周辺の住民35人を対象に7月2〜3日に行った意識調査で「水害が不安」と答えた人が9割を超えた。同県など関東甲信地方は29日に梅雨明けしたが、秋の台風シーズン前に抜本的な対策が必要になっている。

今回の調査でダムがもたらす水害の可能性についてどう思いますか

「不安」34.3%、「非常に不安」60%、「その他・分からない」5.7%、「あまり不安を感じていない」0%、「不安を感じない」0%

今後雨畑ダムの堆砂状況をどうすべきだと思いますか

「日本軽金属が除去」39.5%、「国や山梨県などが除去」18.4%、「現状のまま」0%、「その他の方法で除去」2.6%、「その他・分からない」39.5%

今回の調査でダムがもたらす水害の可能性について「非常に不安」と答えた人は計94・3%に上った。理由に「(地帯)前の台風」が1人、「文句は言いたくないが1人で反対しても仕方ない。我慢している」との声もあった。ダム湖のほとんども覆う土砂についてどうすべきか聞いたところ、「日軽金に除去してもらおう」を選んだ人が「その他・分からない」とした答えと同じ39・5%。理由は「(上流からの土砂流入はあるが)ダムによって結果的にこうなってしまう」「全責任は管理者の日軽金にある」などだった。

一方、「日軽金だけ

い」との意見があった。雨畑ダムが完成した1967年前後の地元を知る21人に対し、ダム建設を今どう思うか尋ねたところ「後悔している」と答えた人は約5割に達した。

住民意識調査結果を受け静岡新聞社は日軽金、山梨県、国土交通省富士川砂防事務所に対し雨畑地区の水害対策をどのように行うかなどを聞いた。日軽金は「一企業の対応だけでは難しい状況になりつつある」と回答。同県は「地元から要望がある旨を国に対して伝えていく」とし、同事務所からは「関係者間で情報を共有し、それぞれ立場で対策を行っている」との回答が29日までにあった。

ダム問題に詳しい明治学院大の熊本一規名誉教授(環境政策)は「雨畑ダムの水で発電された電力は日軽金が全て使用してきた。堆砂問題解決の法的義務は日軽金にある。ただ、水害危機は差し迫っており、国や山梨県は長期的な助成の仕組み作りなどが必要だ。深刻な財産権の侵害の恐れに対し、住民も立ち上がるべきだ」と解説した。

(サクラエビ異変取材班)